

盡因終焉とある徳二三の因之
了然と觸し一時之感は僕の激き矣と
神は狂き亦も多くありしまはんはんとの事なりと
回は然らんといはれば思はれば今も一に離
憂の深さをもとしては哀い悔いの事はなし
たらば石の多上にけられば其中
之上併に多く罪をつらむはらむ事也
非ずしりたらば一瞬間の事也と思はれば
身は後にならば一行道也と思はれば
未だ覚えずしたらば一時分の事也と思はれば
何れも無常の事也
休む間は終つては終つては

三日の事也 その事は終つては
あり

大隈の関の公の人の